

世界とつながる私たち～カンボジアを知ろう

土田 航一郎
横浜市立飯田北小学校

実践教科：総合的な学習の時間、道徳

時間数：18時間

対象学年：小学3年生

対象人数：32名

◆指導案

○実践の目的

- ・本校とも関わりのあるカンボジアについて知り、学びを深め、全校児童や保護者、地域の方に発信する。
- ・外国と日本との人と人とのつながり、文化のつながり、生活とのつながりについて考える。
- ・多文化共生の意識を高め、分け隔てのない心情を育てる。

○授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	「カンボジアの今の様子を知ろう。」 ねらい：カンボジアの国、人に対する興味関心を高める。	(1) 昨年度の担任だったシムリアップ ^① 在住の本校元教員のブログを皆で見る。 (2) カンボジアについて関心を高め、カンボジアの子供たちに日本のことを伝えるならば何を伝えたいかについて考える。	(1) パソコン シムリアップ ^① 在住の本校元教諭のブログ (2) テレビ
2～3	「カンボジアの人たちに、自分たちの得意なことを伝えよう。」 ねらい：カンボジアに自分たちで考えた日本の文化を伝える。	(1) 自分たちが発表したいことを発表構成を考えながら練習する。 (2) 前時に考え、練習した自分たちの「得意なこと」をビデオに撮影する。	(1) ビデオカメラ (2) 発表に必要なものを各自が持ち寄る。 (サッカーボール、バスケットボール、竹馬、ローラースケート、フラフープなど)
4～7	「カンボジアを知ろう」 ねらい：子ども達一人ひとりがカンボジアについての知識を深める。 カンボジアに対しての興味関心を高め、発表会に向けての意識を高める。	(1) カンボジアの位置、気候、町の様子、動物、昆虫、アンコールワットについて知り、カンボジアの遊びをする。 (2) 地雷、不発弾除去と「なぜ地雷除去が必要なのか」時代背景についても考える。 (3) カンボジアでシルクを作り、村の生活を支えている森本さんについて知る。 (4) 日本とカンボジア、そしてその他の国とのつながり、人の思いについて考え、自分たちが発表したいことについて考える。	(1) パワーポイント (2) カンボジアで撮った写真 (3) 現地の楽器 (4) 地雷危険のマーク (5) 影絵の人形 (6) タイ、カンボジア家のペーパークラフト(神奈川県国際交流協会販売) (7) クロマー (8) カンボジアのシルク製品 (9) ビデオ
8～14 16	「みんなの国を知ろう」の発表会に向けて練習をしよう。 ねらい：カンボジアの良さをどう伝えていきたいかを考えながら、発表に向けての練習をする。	カンボジアの様子、歴史、文化、遊び、くらし、動物、カイコ、日本など他の国とのつながりの8つのグループに分かれ、発表会に向けた活動(発表の内容と発表方法の確認、セリフの練習、カンボジア語のなだそうそ ^② の歌の練習など)	(1) パワーポイント (2) タイ、カンボジアの家のペーパークラフト (3) セパタクロ ^③ のボール (4) クロマー
15	「言葉がわからないことってどんな気持ち？」	(1) 日本のかけ算九九をする。 (2) カンボジアの教科書を紹介し、カンボジア	(1) カンボジアの教科書 (2) ワークシート

	ねらい:言葉が分からいまま、学校生活を送ること、その友だちの気持ちについて考える。異文化の中での生活について、体感を通して学ぶ。	語でのかけ算にチャレンジする。 (3)ベトナム語のかけ算にチャレンジする。 (4)言葉や文字の一部が分かったところで、スムーズに勉強はできないことを知る。 (5)外国から来た友達の気持ちに気づく。	(3)ベトナムの九九表 (4)ベトナムの数字
17 18	ふれあい広場「みんなの国を知ろう」発表会 ねらい:地域の方や全校のみんなに、自分たちと関係のある国「カンボジア」の良さを伝える。	カンボジアの様子、歴史、文化、遊び、くらし、動物、カイコ、日本など他の国とのつながりの8つのグループごと、それぞれの発表を行う。最後にカンボジア語で「なだそうそう」を歌う。	(1)パワーポイント (2)発表に必要な現地の物セパタクローのホール、クロマー、影絵、地雷のマーク、ペーパークラフト、動物の拡大写真 (3)なだそうそうのMD

授業の詳細

◆1時限:「カンボジアって、どんなところだろう」(カンボジア渡航前に実施)

- (1)昨年度の担任だったシェムリアップ在住の本校元教員のブログを皆で見る。
- (2)カンボジアののについて関心を高め、カンボジアの子供たちに日本のことを伝えるならば何を伝えたいかについて考える。

昨年度に担任だった教師が現在住んでいる国ということで、子ども達のカンボジアに対する興味関心は高い。実際に、インターネットを用い、様子を知らせることで、さらに身近に感じる事ができたようである。

◆2, 3 時限:「カンボジアの人たちに、自分たちの得意なことを伝えよう。」(カンボジア渡航前に実施)

- (1)体育館で、ローラージュズ、バスケットボール、サッカー、竹馬、フラフープ、絵のグループに分かれ、自分たちが発表したいことを発表構成を考えながら練習する。
- (2)前時に考え、練習した自分たちの「得意なこと」をビデオに撮影する。

もともと、自分たちのことを知ってもらいたい、発表したいという意識は高い子ども達であるが、「カンボジアの人に実際に見せよう」という目的が加わったことで、かなり真剣に取り組む様子が見られた。発表の構成や、見せ場など自分たちで工夫して取り組んでいた。

◆4 時限:「カンボジアを知ろう」

- (1)カンボジアの位置について知る。
- (2)カンボジアの首都をしり、横浜との比較から人口を予想する。
- (3)物価の違い、気候、町の様子、動物、昆虫、アンコールワットを紹介する。
- (4)カンボジアの遊びを紹介し、ハンカチ落としを実際に遊んでみる。

本時～6時限は主にパワーポイントを用いての授業を実践する。まず本時においては、カンボジア研修の報告も兼ねて、基本的なことについて紹介する。

【子どもたちの感想】

- ・バイクがよくベトナムと同じものがたくさんありました。さずりも同じでした。
- ・コーラやビールが日本とちがってやすかったのでびっくりした。カンボジアの遊びが分かってよかった。次はもっとカンボジアのことを知りたいです。
- ・カンボジアのいろいろなことを知った中で一番すごいと思ったことは、ビールとコーラがすごく安かったことです。バイクの5人のりがすごい。

◆5 時限:「もっとカンボジアを知ろう」

- (1) カンボジアの農業人口比率、稲作について知る。
- (2) 日本と同じものがカンボジアで売っていたことを紹介する。
- (3) フォトランゲージで、4枚の写真(JMASの西城さん、新井さん、村の子供たち、陸稲の畑)を提示。それぞれどんなつながりがあるのかを考えさせる。
- (4) 絵本「続・地雷ではなく花をください」を読み聞かせる。
- (5) 不発弾や地雷を知らせる実際のマーク、爆破処理の過程、爆破処理の映像を見せる。
- (6) 地雷のある場所(国中にあるわけではない)、不発弾や地雷でなくなった人の数などを伝える。
- (7) なぜ今も、地雷や不発弾が残っているのかについて考えさせる。
- (8) カンボジアの人口ピラミッドを見せ、極端に人口が少ない年代があることに気づかせる。
- (9) 「カンボジアの悲しい歴史」内線の事実を伝える。
- (10) だからといって、カンボジアを「地雷の国」としてよいのかと考えさせる。
- (11) 今のカンボジアには笑顔がたくさんあることを紹介する。

フォトランゲージの場面では、JMASのお二人と子ども達、畑の写真を見て、「農業のことを日本の人が教えている」という意見が多かった。『カンボジア＝不発弾や地雷』と結び付ける子どもは少なく、「続・地雷ではなく花をください」の絵本や、爆弾処理の実際の様子(ビデオ)、村の近くに不発弾が残る現実については、どの子もすごく驚いていた。爆弾があるから不幸で悲しい国と結び付けて授業を終えたくなかったため、たくさんの現地の子どもの笑顔を紹介して授業を終えたが、問題提起と一部の現実の紹介を授業で行うことの難しさを感じた。

【子どもたちの感想】

- ・どうして同じ国どおし、戦争をしなければいけないんだろう。
- ・カンボジアで内せんを行っていっぱいの人が死んでしまって悲しいと思った。(疑問)どうしてカンボジアは内せんをしたのか。
- ・なぜタイとの国きょうに地らいがあるんだろう。なぜ地雷がまだ残ってしまったんだろう。昨日よりもっとカンボジアのことが分かって、よかったです。
- ・なんで国の中でせんそうをしたんだろうと思う。カンボジアを地雷の国と呼んじゃだめだと思う。

◆6 時限:「カンボジアの養蚕について知ろう」

- (1) ウメール伝統の森代表の森本さんの写真を見せ、何をしている人か考えさせる。
- (2) カンボジアの蚕、シルク製品、子供たち、機織り機の写真を見せ、さらに考えさせる。
- (3) カンボジアの蚕の飼育、生糸生産について知る。
- (4) 森本さんはなぜ、現在もカンボジアで現地の人たちと暮らしているのかについて考える。
- (5) カンボジアと自分たちとの「つながり」について考える。

今年度、「総合的な学習の時間」において、「カイコと町と私たち」というテーマで一年間学習を行っているため、特に本時は、カンボジアの養蚕をクローズアップして授業を行う。今まで日本のほかに、中国やベトナムでも養蚕がおこなわれていたことを知っている子がいたので、さらにカンボジアでも養蚕がおこなわれていることを知り、身近に感じたようである。また、「座繰り」を用いての生糸紡ぎの体験から、「同じ方法で糸を紡いでいる」と気づく子や、カイコの飼われ方や、工夫についても日本と同じであることに気づく子も多かった。

【子どもたちの感想、「なぜ、森本さんはカンボジアで暮らし続けているのだろう?」】

- ・カンボジアの文化(染物)がまたなくならないように、今も暮らし続けているんだと思う。
- ・カンボジアでかいこをかって、かごにカイコがいっぱいのせてあって、かいこをまもるためにかごに水を入れていることが

すごいなあと思いました。

- ・森本さんは、内戦で家や、村や人がなくなって、一度なくなったカンボジアの文化を復活させたから、それをこれからも守りたいんだと思う。
- ・森本さんは、カンボジアの国にも幸せになってほしいんだと思う。

◆7 時限「世界とつながる私たち」～カンボジア、日本、ほかの国々と自分たちとのつながりについて考えよう。

- (1) カンボジアの文化について紹介する。
- (2) カンボジア日本友好学園で、飯田北小のみんなの得意なことについて紹介したことを伝える。
- (3) 小松さん、村山さんを紹介し、なぜカンボジアには、「先生に教える先生」が必要か考えさせる。
- (4) ポルポト政権時代に、禁止されたこと(都会に住む、家族、教育、宗教、お金、文化、機械文明、人権)、逆らった人は殺されたことを紹介する。
- (5) カンボジアをもっとよい国にするためにがんばっている人たちを紹介する。
- (6) 自分とつながっているもの、日本とカンボジアのつながり、日本、カンボジア、そのほかの国でつながっているものについて考えさせる。
- (7) 「みんなの国を知ろう」の発表会で、カンボジアの何を伝えたいかを考える。

三年生には伝える内容として、少々重い内容だったかもしれないが、内戦の事実、当時禁止されていたこと、それでなくなった人の数、現在への影響などについて、具体的に伝える。5 時限目でも伝えた内容をさらに掘り下げて伝えるが、どの子も「自分たちの知っている国にある一つの現実」として、子どもたちなりにとらえている様子がかがえた。

【子どもたちの感想】

- ・家族や文化など「権利」をもつことを禁止されるなんてひどい。それで命を奪われるなんて考えられない。
- ・国の人同士で戦うなんて、ひどい。そのせいで今も先生の数が少ないなんて、びっくりした。
- ・カンボジアの今が平和で良かった。
- ・日本もカンボジアもカイコを飼っていることや食べ物など同じだった。ベトナムも同じだった。
- ・発表会ではカンボジアの笑顔を伝えたい。良いことを伝えたい。

◆8～14、16時限「みんなの国を知ろう」の発表会に向けて練習をしよう。

- (1) 発表会ではカンボジアのどんなことを伝えたいか、話し合う。
- (2) 自分が発表したいグループに分かれる。
- (3) グループごとに何をどうやって発表するか、内容を話し合う。
- (4) 発表の練習をする。

今までの授業を受けて、いよいよ自分たちが発表会で何を伝えたいかについて話し合う。話し合いの結果、カンボジアの様子、歴史、文化、遊び、くらし、動物、カイコ、日本など他の国とのつながりの 8 つのグループが決まり、それぞれ「何を」「どのように」伝えていか、話し合いながら活動を行う。

◆15時限「言葉がわからないことってどんな気持ち？」

- (1) 日本語の九九をやる。(解くまでにかかった時間を測る)
- (2) カンボジアの教科書を見せ、カンボジアのかけざん九九をやる。(できない)

(3)カンボジアの数字表を配る。一緒にやってみる。

「数字が分かったから、できるね。」

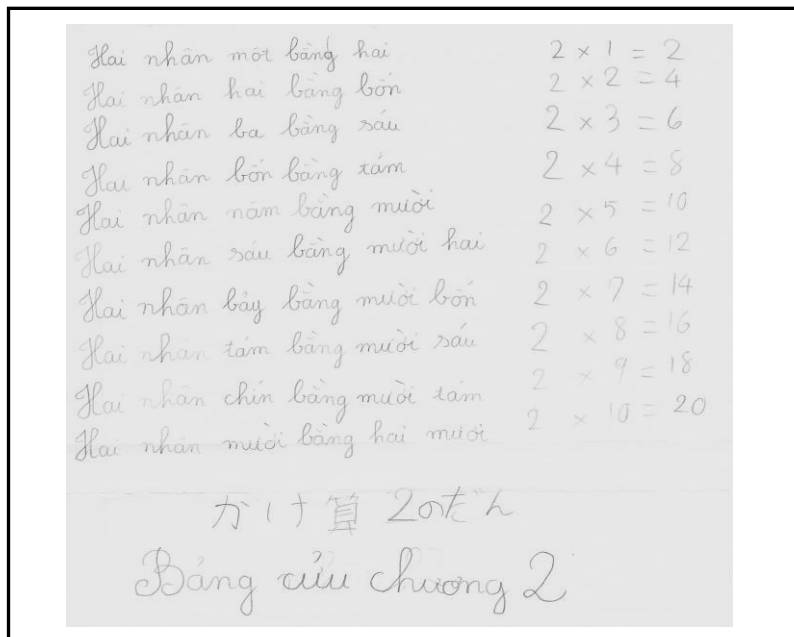
០	១	២	៣	៤
០	I	II	III	IV
៥	៦	៧	៨	៩
V	VI	VII	VIII	IX
១០	១១	១២	១៣	១៤
X	XI	XII	XIII	XIV
១៥	១៦	១៧	១៨	១៩
XV	XVI	XVII	XVIII	XIX
២០	២១	២២	២៣	២៤
XX	XXI	XXII	XXIII	XXIV

(カンボジアの数字表と九九表)

២ x ១ = ២	៣ x ១ = ៣	៤ x ១ = ៤
២ x ២ = ៤	៣ x ២ = ៦	៤ x ២ = ៨
២ x ៣ = ៦	៣ x ៣ = ៩	៤ x ៣ = ១២
២ x ៤ = ៨	៣ x ៤ = ១២	៤ x ៤ = ១៦
២ x ៥ = ១០	៣ x ៥ = ១៥	៤ x ៥ = ២០
២ x ៦ = ១២	៣ x ៦ = ១៨	៤ x ៦ = ២៤
២ x ៧ = ១៤	៣ x ៧ = ២១	៤ x ៧ = ២៨
២ x ៨ = ១៦	៣ x ៨ = ២៤	៤ x ៨ = ៣២
២ x ៩ = ១៨	៣ x ៩ = ២៧	៤ x ៩ = ៣៦
២ x ១០ = ២០	៣ x ១០ = ៣០	៤ x ១០ = ៤០
៥ x ១ = ៥	៦ x ១ = ៦	៧ x ១ = ៧
៥ x ២ = ១០	៦ x ២ = ១២	៧ x ២ = ១៤
៥ x ៣ = ១៥	៦ x ៣ = ១៨	៧ x ៣ = ២១
៥ x ៤ = ២០	៦ x ៤ = ២៤	៧ x ៤ = ២៨
៥ x ៥ = ២៥	៦ x ៥ = ៣០	៧ x ៥ = ៣៥
៥ x ៦ = ៣០	៦ x ៦ = ៣៦	៧ x ៦ = ៤២
៥ x ៧ = ៣៥	៦ x ៧ = ៤២	៧ x ៧ = ៤៩
៥ x ៨ = ៤០	៦ x ៨ = ៤៨	៧ x ៨ = ៥៦
៥ x ៩ = ៤៥	៦ x ៩ = ៥៤	៧ x ៩ = ៦៣
៥ x ១០ = ៥០	៦ x ១០ = ៦០	៧ x ១០ = ៧០
៨ x ១ = ៨	៩ x ១ = ៩	១០ x ១ = ១០
៨ x ២ = ១៦	៩ x ២ = ១៨	១០ x ២ = ២០
៨ x ៣ = ២៤	៩ x ៣ = ២៧	១០ x ៣ = ៣០
៨ x ៤ = ៣២	៩ x ៤ = ៣៦	១០ x ៤ = ៤០
៨ x ៥ = ៤០	៩ x ៥ = ៤៥	១០ x ៥ = ៥០
៨ x ៦ = ៤៨	៩ x ៦ = ៥៤	១០ x ៦ = ៦០
៨ x ៧ = ៥៦	៩ x ៧ = ៦៣	១០ x ៧ = ៧០
៨ x ៨ = ៦៤	៩ x ៨ = ៧២	១០ x ៨ = ៨០
៨ x ៩ = ៧២	៩ x ៩ = ៨១	១០ x ៩ = ៩០
៨ x ១០ = ៨០	៩ x ១០ = ៩០	១០ x ១០ = ១០០

(4)ベトナム出身の子にベトナムの九九をやってもらう。(2の段を言ってもらう)

「数字がわかれば、できるはずだ」「では、数字が分かるからって、早くできるかな？」



(5)ベトナムの数字表を見せる。

- 1 một (モツ) 2 hai (ハイ) 3 ba (バー) 4 bốn (ボン) 5 năm (ナム)
 6 sáu (サウ) 7 bảy (バイ) 8 tám (タム) 9 chín (チン) 10 mười (ムイ)

(6)ベトナム語の数字で、かけ算の問題を解く。(時間を計る)

普段は、時間のかかるベトナム出身の子が一番早く10問を解くことができた。

名前 _____		
やってみましょう		
① bốn × tám	② sáu × bảy	③ chín × một
④ tám × tám	⑤ ba × năm	
⑥ hai × sáu	⑦ chín × bảy	⑧ hai × hai
⑨ một × bảy	⑩ năm × sáu	

(7)時間がかかったわけを考える。

- ・一回一回言葉の意味を考えながら解かなくちゃいけなかったから。
- ・ベトナム語が分からないから、難しい。
- ・ベトナム人じゃないから、わからないよ。
- ・ヒントがないと答えられない。
- ・ヒントを見ても、答えられない。

…今、皆さんが感じたその気持ちは、Nさんが日本に来て味わっている気持ち、そのものです。

(8)ふだん言葉が不自由な子に対して思いがちな言動について考える。

「…なんでそんなこともわからないの？」

「日本なんだから、日本語を使って当たり前。」

「わからないんだったら、自分で調べればいいんじゃないか。」

…などと外国出身の友達に対して、考えたことはないだろうか。

(9)文化などの違いを考えよう。

日本の勉強とベトナムの勉強の違い(体育がないなど)

給食～食べ物の違い 「食べたことがないもの、味が違うものを食べられないのはわがまま？」

(10)「日本で困ったこと」「日本でうれしかったこと。」などについて、聞いておいたことを伝える。

①転校してきて困ったこと、心配していたこと

日本に来て、いじめられるんじゃないかと心配していました。でも、実際は大丈夫でした。

他の学年の人から悪口を言われたことはあります。

②心配だった理由は？

日本語が分からないからです。

③ベトナムでは出来ていたのに、日本でできないことは？

ベトナムでは、勉強ができました。テストもいい点が取れていました。でも、日本では、まだテストでいい点数が取れません。社会は、ベトナムではなかったです。理科はテストがありませんでした。

また、体育の鉄棒、ハードル、跳び箱はやったことがありませんでした。

④日本に来てから嬉しかったことは？

車が安全です。(ベトナムは、信号が変わった途端「3・2・1ゴー」で車がいっせいに飛び出すから危ない)あと町がきれいで良かったです。

(11)どんな気持ちで接してあげればよいか？

- ・自分ににとっては当たり前でも、それが当たり前じゃない人がある。
- ・その人の気持ちに立って、助けてあげる。わかってあげる。

【子ども達の感想】

- ・日本では、テストがちょっと難しい。ベトナムでは簡単だった。(ベトナムから1年生の時に転入)
- ・問題を見て、大苦戦したけど、Nさんはわかっていたのに、ものすごくびっくりしました。
- ・ベトナムのかけ算がこんなに難しいとは思わなかった。言葉が分からない人や分かる人がいるんだと思った。
- ・私も日本語が分からない時がありました。でも今は日本の字も分かるので、T君やNさんの気持ちが分かります。(両親がベトナム出身。家庭ではベトナム語で会話)
- ・ベトナムのかけ算をやってすごく難しいんだなと思いました。
外国から初めて日本に来たとき会話ができなくて、友達を作りたくても友達ができなくて一人ぼっちで過ごしている「さびしい気持ち」だったんだなと思いました。
- ・言葉が分からないことで、いじめられるかもしれないことや、友達と仲良くなれるか心配ということがわかりました。言葉が分からない気持ちがわかりました。(両親がベトナム出身。家庭ではベトナム語で会話。)
- ・日本に来て、言葉が通じないので「何をすれば分からない。」というのがわかりました。私もいきなりベトナムのかけ算をやってみたけど、全然できなくて一問しか解けませんでした。
- ・NさんやT君の気持ちがわかりました。ほくもベトナム語のかけ算をやってみたけど、ヒントがあってもわかりませんでした。Nさんたちを応援したいです。
- ・ベトナムから日本へ来て味わった気持ち、わからないこと、不安が分かった。
- ・言葉が読めない、文字が分からないということの気持ちが少しわかりました。
- ・ベトナムのかけ算がちょっと難しかった。でも楽しかった。(母ベトナム、父カンボジア出身のベトナム人、普段はかけ算の速さは普通だが、今回は2番目に解き終わった。)
- ・ベトナムのかけ算が楽しかったです。(ダントツで一番で終了。ベトナムから転校してきたNさん)
- ・私は少しベトナム語が話せるけど、文字が読めなかった。(両親ベトナム出身。家庭ではベトナム語で会話。)
- ・言葉が分からないからってバカにしてはいけない。言葉が分からなくてもちょっとずつ勉強すれば言えるようになる。(両親が中国出身)
- ・言葉が分からないと、勉強をどうやったらいいのかが分からないし、みんなに教えてとかも言えない。(父アメリカ、母日本。家庭では日本語)
- ・Nさんが日本に来たときの気持ちがよく分かった。外国から来た人をいじめてはいけないと思った。(両親中国系ベトナム人)
- ・ベトナム語を読めないから、ヒントを見てもかけ算ができなかった。
- ・ベトナム語はわたし達にとっては難しい。でも逆に日本語が分からない人には、日本語が難しい。出来たこと、出来ることはみんな違う。

- ・日本語が分からないのがかわいそうな気がしました。あと、字が書けないのはしょうがないと思った。
- ・国の言葉や字が分からなかったらこんなに困るとは知らなかったです。(両親中国出身。家庭では中国語)
- ・すぐNさんの気持ちが分かりました。Nさんはそんなにつらかったとは知らなかった。(両親ベトナム出身。家庭ではベトナム語)
- ・ヒントがなかったからできなかった。とてもできないと思ってしまった。難しいからあきらめてしまった。(両親、ベトナム出身。家庭では日本語とベトナム語)
- ・ベトナムの人は日本に来てから言葉が通じないからかわいそう。
- ・ヒントも見ても、いちいち画面を見てなんという文字か確認しないとイケなかったので、あまりできませんでした。NさんやT君も、日本に最初に来たときは、こんな気持ちだったのかなあと思いました。
- ・難しかったけど、6問できて良かった。最初はカンボジア語だと思ってたけど、ベトナム語だったんだってわかった。(両親がベトナム出身。家庭ではベトナム語)
- ・NさんとT君が日本に来てどんな気持ちになったのかが分かった。
- ・言葉が分からない人の気持ちが分かってきた。
- ・ぼくは、ベトナムの字がわからなくて、かけ算もスラスラできませんでした。でもNさんやNiさんは1分以内に出て来てすごいと思った。(両親がベトナム出身。家庭ではベトナム語)
- ・Nさんたちの気持ちがよく分かった。私も他の国に行くと、いじめとか心配になると思います。



◆17、18 時限 ふれあい広場「みんなの国を知ろう」発表会
3年生「もっと知ってほしいなカンボジア」の発表を行う。

3年1組「もっと知ってほしいな カンボジア」発表原稿

1	3年1組は、カンボジアのことをみなさんに、もっと知ってほしいと思います。それではみなさん、聞いてください。
2	カンボジアの首都は、プノンペンです。広さは、だいたい日本の半分くらいです。
3	みなさんは、カンボジアの国のはたに、なんの絵が描かれているか、知っていますか？ カンボジアの国の旗には、アンコールワットが描かれています。
4	アンコールワットは、今から約900年も前に作られました。今でもお寺として使われています。
5	カンボジアには、「メコン川」という大きな川が流れています。長さは4023kmもあり、なんと日本よりも長い川です。 中国、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナムを流れて、海に流れていきます。
6	みなさんは、これが何に使われているか、知っていますか？
7	これは、地雷や不発弾が近くにあることを知らせ、人々を危険から守るためのマークです。
8	カンボジアでは、30年くらい前の戦争でいまも多くの不発弾や地雷が残されています。
9	しかし、国中に地雷が残っているわけではありません。
10	今では、地雷はタイとの国境の近くなどに残されているだけです。日本など多くの国の協力でカンボジアでは今日も爆弾の処理が行われています。
11	カンボジアには、「ロニアットアエク」という竹の木琴や、「コーントム」というたいこ、「トローチエ」などの楽器があります。トローチエはこれです。
12	また、「スパエクトーイ」という影絵も有名です。このように牛の皮でできた人形で、演じます。
13	スポーツは、バレーボールやセパタクローをします。セパタクローのボールは、このようにサッカーのように叩いて使います。
14	カンボジアのハンカチ落としをしようかします。
15	・リアッコサエンは、カンボジアの正月によく遊ばれるそうです。わたしたちが今つけている「クロマー」という布を使って遊びます。実際にやってみます。
16	が、輪になる。最初のおこは、。
17	このように、おこにクロマーを落とされると、落とされた人と、その右にいる人が立ち上がります。 そして、クロマーで右の人を追いかけて、1しゅう走らなければならないのです。(説明後、すぐ立ち上がって並ぶ)
18	みなさんも、ぜひ遊んでみてください。
19	カンボジアは、日本よりももの値段がとても安いです。コーラやクイティウという「うどん」が、だいたい34円くらいで買うことができます。
20	これは、カンボジアの水上ハウスと、地方の家のもけいです。

	カンボジアでは、雨がたくさんふる季節があるので、湖にかべる家や、2階に住むところになっている家があるのです。
21	私はカンボジアでは歯がぬけたらどうするか、調べました。カンボジアの人は、下の歯がぬけたらやねの上に上の歯がぬけたら地面に投げるそうです。
22	カンボジアの人は、バタを町に売りに行くと、バイクに乗せて運ぶと思いますか？ ○だと思う人、手をあげてください。×だと思う人、手をあげてください。 正解は、○です。
23	みなさんは、カンボジアにどんな動物が住んでいると思いますか？
24	これは、トッカーというトカゲです。「トッカー」と鳴くから、こんな名前です。トッカーのいる家は、お金持ちになるといわれています。
25	これは、さそりです。しっぽに毒があり、さされるととても危険です。
26	ほかにも、トラやワニ、ぞうや、バクなどもいるそうです。
27	みなさんは、カンボジアでもカイコが育てられているのを知っていますか？
28	カンボジアのカイコも白い色で桑を食べて育ちます。でもまゆの色と、生糸の色は、このようにちがいます。カンボジアのカイコの糸は金色です。
29	カンボジアのカイコの天敵は、なんだと思いますか？それは「あり」と「水牛」です。
30	カンボジアには、「森本さん」という日本人が作った村があります。そこではカイコを飼って布を織り、300人の人と生活しています。
31	カンボジアにいる、「さる」「牛」「さそり」「トッカー」などは、ベトナムにもいる動物です。
32	町に、バイクがたくさん走っていることや、道路の様子もベトナムにとても似ています。
33	これは、カンボジアのお店で売っていたお米や野菜です。お米、日本と同じものが、カンボジアでも育てられているのです。
34	また、カンボジアでも、ベトナムでも、日本でもカイコが飼われていたことも分かりました。
35	※ ここで全員整列する。(整列した時点で、MDの前奏スタート「なだそう」のピアノ伴奏)
36	みなさん、カンボジアのことを知ってもらえましたか？
37	さいごに、カンボジアで歌われている日本の歌を紹介します。「なだそう」です。聞いてください。
38	(歌が終わったら全員で) これで、「もっと知ってほしいな カンボジア」を終わります。 チョムリアップ リア！

◆ 成果と課題

わたしの担任する3年1組は、男子15名、女子17名の32名。そのうち外国につながりがある児童が14名(ベトナム11名、中国2名、アメリカ1名)在籍しており、半数近くの子が外国につながりがある児童という国際色豊かなクラスである。そのうち1名は、4月にベトナムから転入してきた日本語の理解が難しい女子、また1年生の時にベトナムから来日したという男子が一名8月末に、大和市から転校して来た。その2名が日本語の理解がやや難しい状況である。その子の日本語の通訳は、保護者がベトナム出身の児童が日常的に行ったり、簡単な日本語で伝えたりしながら、授業を進めている。そのため、外国とつながりがある子たちへの偏見は基本的になく、日常的に母国語の会話が教室でも聞かれるといった環境である。

このクラスにおいて、大きな偏見はないものの、日本語が不自由な児童へとその他の児童との意思疎通の難しさ、「言葉」が通じにくいことによるすれ違いが生じることもある。そのため、15時間めに「言葉がわからないことってどんな気持ち？」という実践授業を設定し、実施した。言葉を知らないことで生じる思考の難しさや、それまで感じてきた自信の喪失、周りの理解の難しさなどを短時間でも事業で共有できたことは大きな成果であった。

また、今回の授業を通し、教師自身が実際にカンボジアに行き、感じてきたことを学べたことは、私にとっても子ども達にとっても大きなことだった。子どもたちからは、「全校の児童や保護者、地域の大人にカンボジアのことを知らせたい。」という気持ちが強く感じられた。「人ごと」ではなく、少しでも「自分ごと」としてカンボジアについて考えられたことが、本やインターネットの知識から得た情報を発信するような発表とは違った発表内容につながったと思う。さらに、日本、自分たちとかかわりのある国、カンボジアを通して世界との文化のつながりや人と人とのつながりを考えられたことや、感じられたことも大きな成果だったと思う。

しかし、カンボジアの文化や様子を伝え、国際理解の視点から授業を組み立ててみたが、全体を通して「発表会に向けての授業」と実践の部分が大きくなってしまったことは大きな反省点である。私自身にまだまだ国際理解教育や開発教育に対する知識や、実践経験、授業の引き出しの少なさが大いに影響しているものと思われる。今後はもっと、子どもたち自身の心や価値観を揺さぶるような授業実践をしていきたい。そして、本研修などの経験を生かし、文化や感覚の違いへの理解に結びつけ、多文化共生の意識をもっと子どもたちや保護者に広げていけるような授業実践をしていこうと思う。

授業の中で使用したもの



地雷注意のマーク



カンボジアの地図



影絵の人形



ペーパークラフト(帰国後購入)



算数の教科書



実践授業の様子

◆ 参考資料

- ・「続・地雷ではなく花をください」 柳瀬房子 自由国民社 発行
- ・ペーパークラフト 「タイ・アユタヤ地方 チャークリンぐんの家」「トンレサップ湖の水上家屋」
企画 財団法人 かながわ国際交流財団
- ・カンボジアで撮影したビデオ
「メコン川の横断風景」「JMASの不発弾処理場面」